

令和6年度 滝頭地域ケアプラザPDCAシート_公表用（事業計画書、事業報告書、事業実績評価）

—総括表—

◆ 事業計画

☐ 地域の現状と今後の方向性		
地域の現状として、起伏の多い地域であり地域ケアプラザに気軽に通うのも高齢者にとっては難しいところがあります。また、地域包括ケアシステムの構築については初期段階にあります。 今後の方向性として、従来どおり積極的に地域に出向き、顔の見える関係作りを引き続き行います。また学校関係者等との連携を深め、生徒や保護者にも地域ケアプラザの周知を図ったり、広報誌や事業のチラシの配布場所を拡充します。地域包括ケアシステムの構築に向けて、地域関係者や区役所・区社協・介護保険事業所などとの繋がりを強め推進を図ります。		
☐ 今年度の重点的な取組		
新規	継続	—具体的な取組内容—
☐	☒	地域づくりや介護予防に主体的に携わる人々と社会参加と活躍の場を連携・協議し、出番と役割を創出の継続を行い、岡村地区の新しい会館を用いて介護予防サポーターの出番とフレイル予防を地域に提供する。
☐	☒	紅葉祭でボランティア活動、地域貢献活動の働きかけを作り、活動を活性化させていく。圏域の学生に地域貢献活動ができるよう学校と連携をとり、デイサービスとも連携し活動の場を提供する。
☒	☐	ケアプラザの事業や出張講座や地域のサロンなどへ参加されている方に認知サポーター養成講座の受講などを促し、新たなボランティア獲得を目指す。
☐	☒	個別ケース地域ケア会議を重ね、自治体関係者や民生委員など支える側となる地域住民とともに、課題解決にむけて具体的な検討を行う。どうすれば地域で孤立することなく生活することができるのか、地域住民とともに検討を行う。
☐	☐	

◆ 事業報告・事業実績評価

☐ 振り返り
地域ケア会議や、協議体をつくり目指す方向や目標の確認などの話し合いを行った。既存の通いの場の他に新たな通いの場立上げへ向けでもヒアリングを行い動き始めた。また対話集会や地域のサロンに参加させて頂き交流とともに情報の収集も行った。包括保健師と生活支援コーディネーターが協力しフレイル予防サポーターの普及に取り組んでいる。通いの場がなかった地域には反応の良かった民生委員にサポーターになって頂き新たな通いの場を作る活動を現在行っている。サポーターの新しいメンバーを増やしていかなければと思う。紅葉祭では多くのボランティアが活動を行い、地域貢献に活かすことが出来た。長期休み中の学生や、圏域の中学校の特別支援級の生徒がボランティア活動を行い、地域住民の一員として地域貢献活動に繋がった。
☐ 区からのコメント
地域情報をデータや住民の声等から課題を把握分析し、丁寧に住民にヒアリングしながら通いの場の立上げ、住民と一体となり進められています。特に方向性や目標について、主体になる地域住民と一緒に確認・同意をとり時間をかけて取組まれている点は非常に評価できると考えます。また、地域の子ども会が減少し、地域と子どもとの接点の希薄化が危惧される中、多世代交流の場や小中学生と地域の接点をつくる等、積極的に工夫し取り組まれています。引き続き区と連携しながら、地域の皆様の主体的な活動の促進・支援をお願いします。 地域ケア会議の開催をきっかけに、調整や連携を重ねていただき、新たな通いの場の創出につながっただけではなく、担い手の創出にもつながっています。地域ケアプラザ内で多職種での適切な情報共有の仕組みが活かされて、地域の担い手の発掘や育成を始め、地域の課題に則した効果的な取組を進めていただきました。引き続き、区と連携しながら、普及啓発活動を始め、地域の皆さまの主体的な活動の促進・支援をお願いします。